

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.153

2018. 7. 2

発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227



【3,000万署名 岩手は現在14万6千筆！】

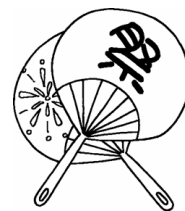
全国市民アクションでは、1,350万筆分の署名を6月7日に提出しましたが、安倍首相に改憲発議を断念させ、安倍内閣を退陣に追い込むため、3,000万目標達成めざして署名運動を続け、秋にも再度署名提出を行うとのことです。

この間の街頭署名では、この間の森友・加計疑惑、公文書改ざん、自衛隊日報隠しなどで、「9条改憲はもちろん安倍首相には辞めてほしい」と言う声が多く聞かれ、それが署名にも結びついています。

9条をまもる岩手の会の中でも、まだ署名を回収しきれていないところや、現在もチラシの全戸配布などに取り組んでいる9条の会があります。「9条変えるな！憲法生かせ！」の声を届けるために1筆でも多く署名を集めたいと思いますので、引き続き取り組みをよろしくをお願いします。

＜盛岡地域連絡会＞…盛岡市材木町よ市で署名よびかけやチラシ配布を実施。

署名は67筆でしたが、「戦後農地解放で土地も金も全て失い、戦争を恨んだ。絶対戦争してはダメ。安倍さんの政治は危うい。9条変えてはいけない」(85歳男性)、「戦争経験者として戦争は絶対反対。9条変えたら子や孫が一番影響を受ける。若い人こそ関係あるので、もっと考えて欲しいね」(85歳女性)、「9条が変われば影響を受ける子どものために署名する」(子連れ母親)などのほか、多くの方から「頑張ってください」の声を受け、反応がよかったです。



＜矢巾九条の会＞…お願い文書と返信用封筒付き署名チラシの地域配布を実施。

◇署名は事務局(岩手県生協連)にお送りください(上部団体に送った場合は筆数をお知らせ下さい)

だれの命も護ろう！安倍9条改憲NO！いのちと憲法シンポジウム

—矢巾9条の会他—

矢巾九条の会が呼びかけ、いわて生協盛南コープ、盛岡医療生協矢巾東支部・中央支部、新日本婦人の会いりろ班が集まり、実行委員会形式で4月29日に矢巾町で開催、町内外から45人が参加。宗教者・医師などのシンポジストが日本国憲法への思い、9条と命の尊さ、南北朝鮮首脳会談や安倍政治の酷さなどスピーチしました。この集まりにシンポジストとして参加予定だった山崎道夫矢巾町議会議員からも発言原稿が届けられ、「私たちは、アメリカと一緒に世界でどこにでも行って戦争する国にすることを目論んでいる『憲法改悪』を、なんとしても阻止しなければならぬ」と訴えました。また、廣田光男町議会議員からの連帯メッセージも紹介されました。



参加者からは、「日本は平和憲法・9条を持ちながら、その理念を生かしていないが、軍隊を持たないコストリカはアメリカの圧力や隣国の軍事化危機に際して外交で積極的平和を築こうと努力し続けている。私たちは不断の努力をしてきたのか」「日本を本当に平和な国にし、世界から尊敬される国にしたい」などの意見が出され、日本の国のあり方を考えさせられる2時間でした。

7月の署名活動 9日(月) 12:15~12:45 「盛岡市大通野村證券前」

秋の臨時国会まで『3000万署名』大きく宣伝したいと思いますので、是非ご参加ください。

9条

アーサー・ビナード氏に感銘。講演会開催

—西和賀9条の会—

5月13日、詩人でコメンテーターのアーサー・ビナード氏を招き、「知らなかった、僕らの戦争」という著作をテーマに講演会を開催。地元のほか、北上・花巻・盛岡・奥州・一関・横手と各地から71人が参加しました。ビナード氏の講演は、第二次大戦時の真珠湾攻撃ではすでに日本の攻撃は察知されていて、米軍の主力艦は攻撃時には全て避難していた事等、参加者には驚くことばかり。アメリカ合衆国憲法にも触れ、一応存在するだけで全くと言っていいほど生かされていない現状についても、日本国憲法と絡めて話されました。参加者は、「本質を見抜き、他人事ではなく自分の問題として考えることが大切だと強く感じた」「元氣と希望を持てた。西和賀9条の会に感謝」など、熱のこもった講演に大きな感銘を受けました。



著名な方々の講演は、都市部に集中し地方との意識の差が広がるばかりです。私たちは今後とも講演会開催や地域での活動を広げ、都市部との運動の差を縮めてゆくため、今後とも活動を続けていきます。

9条

「震災で活躍してくれた人たちを戦場に送っていいのか」憲法を考える講演会開催

—花巻9条の会—

5月19日に、岩手大学教育学部准教授の菊地洋氏を講師に、「憲法9条の行き先は…安倍政権の語る改憲論の危うさとは一」と題した講演会を50人の参加で開催しました。

菊地氏は、横暴な国家権力をしぼる法として、人民が憲法を獲得した歴史を寸劇やパフォーマンスを交えて紹介。権力を抑え、人権を保障するのが憲法であることを強調しました。安倍首相の改憲案は、安保関連法で権限も活動範囲も拡大した自衛隊をあえて9条に明記することで、戦後70年築いてきたこの国のあり方を大転換に導くものと警告しました。最後に、被災地から震災・復興で活躍してくれた自衛隊を戦場に送っていいのかと声を上げ、9条改憲案に反対しよう、と締めくくりました。(花巻9条の会通信より)

コラム

＝ “米朝史上初の首脳会談、「完全な非核化」と「安全保証」で合意”と喜んだが…

6月12日シンガポールで米国・トランプ大統領と北朝鮮・金正恩国务委員長による「米朝史上初の首脳会談」。平和外交の始まりと喜びましたが、直後の世論調査で与野党支持者とも「非核化実現に懐疑的」と報道。「朝鮮半島の完全な非核化は実現すると思わない」と答える人が6割を軽く超える高率。驚くのは野党支持者の懐疑的反応が、与党支持者のそれに負けず劣らずのものであったことです。

北朝鮮が核・ミサイル発射の実験を繰り返していたときに、日本国内ではそれは「断じて認められない！」との世論が高まっておりました。その時にコラム子は心配しておりました。それは「憎きは北朝鮮、エラスグネェ！（盛岡弁）」との「嫌朝感」の感情にならなければよいがとのことでありました。コラム子の余計な心配だったでしょうか。

ここで合意事項を示すことは敢えてしません。しかしその合意は、何も増して優先されるべき「平和外交」の視点で見ると必要があると思います。それは①最後の冷戦構造下の米朝両国が「平和的な環境」を構築しながら会談したこと、②不退転の決意、「不可逆的決意」がしっかり語られていることがしっかりと示されていることであります。

そしてこの合意は、その後速やかに実行に移されております。米国も米韓合同軍事演習中止の表明、北朝鮮も朝鮮戦争当時の米兵遺骨の返還、南北対話の多種多様な実務者協議の進展など「朝鮮半島の平和外交」は始まっております。歓迎すべきことです。

日本は、日本国民のため正しい歴史認識に立ち、日本国憲法に基づいた「独自の平和外交」をすることが緊急に求められていると思います。そうすれば、韓国からも北朝鮮からも直ちに受け入れられます。(T)